

新年度がスタートして約1か月が経過した。大型連休も終了し、今週から再スタートを切ったともいえる。見方を変えれば、今までの1か月間の指導の効果が問われているということである。

4月1日の職員会議において、校長より「学校経営3か条」として以下のことを話した。いわば、所信表明演説である。

～教育は人の心が決める～

教育がうまくいくかどうかを決めるのは人の心である。心が教育を決める。心をベースとした学校経営をしていきたい。

～ベクトルを合わせる～

人には、それぞれ様々な考えがあり、それぞれの人の力（ベクトル）がそろわなければ力は分散してしまい、学校全体としての力とはならない。全員の力が同じ方向に結集したとき、何倍もの力となって驚くような成果を生み出す。

～教職員を幸せにする～

先生方が健康でなければいけない。意欲を失ってはいけない。目標をもっていなければならない。環境を整えることで、そのお手伝いをしたい。先生方の幸せを考えることが、すなわち生徒の幸せにつながると思う。

ざっとこのような内容である。7年前に校長になった4月1日には、「チームワーク・フットワーク・ネットワーク」を大切にしていきたいといった内容を話した覚えがある。ずいぶんとキャッチフレーズ的な話である。方向性として間違っているとは思わないが、重みというものがない。

これまで様々な経験を重ねてきた。校長室という作戦本部で日夜考えてきた。本当は七か条くらいある。だが、それらがこの野田中学校に合うのかどうかの判断ができなかった。そこで、上記の3か条に絞ったという経緯がある。

前任校では、ずいぶんと泣いてきた。それだけ心が動く場面が多かった。それは、生徒のときがあれば、教員のときもあった。保護者の前で涙したこともあった。野田中学校では、まだそれほど泣いてはいない。これから、どんどん心が動かされる場面が増えていき、涙することが多くなるだろう。楽しみである。心をベースにしている以上、そこにはドラマが生まれる。

果たしてベクトルを合わせることができるのか。多少の不安を抱えながら約1か月間過ごしてきた。そして、結論は「いける。大丈夫」である。先生方は、生徒のためなら労を惜しまない。常に生徒のことを考えている。学年主任を中心として、学年集団もしっかりしている。

あとは、先生方が生き生きと活躍できる環境を整えるだけである。先生方に幸せになってもらうのである。そうすれば、生徒の笑顔が増え、心と心のふれあい、結びつきが強まり、数々のドラマが生まれるはずである。私は、それを見ながら涙していればいい。そんな学校にしたい。